

対しラハ意ヲ安シテ速カニ謀動ノ上右其ノ作業ニ従事サレシ
コトヲ勸告スル次第ナリ

昭和四年七月四日

沖電氣株式会社

別記

声明書

全労働者諸君に訴ふ 我等沖電氣入自の従業員は資本家……会社を排撃によりて必
かく今回の争議を味方した。今回の会社は我等の極端な労働組合の破壊より必
いりだ。この為には彼等は必し手放さず方法を選ばない。彼等が一度立ち上り
彼等もまた彼等自身の手放さずて我々の組合所の十を取て狂奔し我が借った金場と先
奪取し去ら。之に對し我等は此の如き方法と出来得る限り努力を以て金場借入りに對
して全努力を傾注した。然るに何れも我等の味方ではない。全組合員を束縛するお
当の如きあるか我等は借入るはなからた。之は会社の應の手が逆ひた結果だ。彼等自
かくして我等の極端な有るは未だに体……争議を壊滅せしめべく努力を払つた結果だ
此に於て我等は二の争議の勝利の方一切、感情をすて、此の事情と總同盟の幹部に訴へ
總同盟の決議と争議組合所に貸付され度き旨と告げた。然るに總同盟の幹部
諸君は自ら……言はず争議勝利の方貸付することと直ちに回答して呉れな
全生指導精神の相違せる立場に……見ても彼等……我々の心情を察知し且
に……我々の重おし言ふ……諸君……相互共何れの条件等自なく……
級の立場から斯くやく多便する次第である。

七月四日

岡本金馬労働組合

沖電氣大労働者協議団

七月四日

早秋から降雨多し……お見え……我々の前……元氣は……天々
同盟本部の金銀に引き……我々の前……元氣は……天々
のくの勢を以て朝の労働……我々の前……元氣は……天々
日本労働総同盟の諸君の階級の道徳に對し敬意を表する。我等
の階級、確立と同時に争議国の結束の堅き事か我等の勝利と雄
飛に物議つて居る。我等の六百の同志の内には病を押し出席し
大進心な方も伏山居る。午後同志の陰鬱に花を咲かした。四時
和氣あいこの内は明日の争議を懸つて帰路に……
七月五日

全社はどうあつたか八十八名の善良な兄弟に辭雇状を送つた
が……我々の……我々の……我々の……
辭雇状を出して……我々の……我々の……
……我々の……我々の……
七月六日

大膽ク……同志は非常に堅い同志諸君は非常
に元氣だ。同志の敢ふ争議国……同志諸君は非常
居る。總同盟本部に……同志諸君は非常
一切を物議つて居る。四時元氣よく……同志諸君は非常